

東村山市民テニスクラブ協議会機関紙

発行責任者 柳 利夫

住所 東村山市萩山町5-6-26-301

Tel. 0423-92-8808

編集者 川村 英明

特集 ** 柏崎遠征記 **

(恩多クラブ) 中根 一夫

10月20日定刻の夜9時、東村山駅に全員集合(総勢10名)、いざ出陣。今回は真夜中11時46分上野発の早朝敵陣乗込みとなるので、明日の試合に備えて少しでも仮眠を取るべく、クマチュー35、ウイズ、トマトジュースの睡眠促進剤を飲み列車に乗り込んだがそこは馴れぬ旅、車中仮眠は容易でなくクマチュー35の効果なく不眠のまま雨中朝霧を突き敵地、柏崎駅に到着。早朝にかかわらず柏崎ローンテニス協会の柴野、野村の両氏及び我が先発隊の柳会長を始め、武谷、米沢、本保の諸兄の出迎えを受け眠気も吹き飛び宿舎に到着、直ちに朝湯につかった上で仮眠を取るもの、朝ビールを飲み仮眠を取る等、各人試合に備え一刻の仮眠を取った。

出迎車が来たとき起きられ、海の幸をふんだんに盛った朝めしの後、雨あがりの中を市中名勝旧跡めぐりに出掛ける。柏崎市は海岸に位置し、広々とした日本海の荒波、ぽっかり浮かぶ佐渡が島の眺め、山辺の緑など、どれを取っても自然に恵まれている市だ。ところが自然だけではなく、最新科学の原子力発電所も持っている由で、そこからウン十億の市の収入があり、この中からスポーツ振興の為にウン億注ぎ込み、近々テニスコート10面、野球場3面が出来ると我々からすれば羨ましい景気の良い話を耳にした。又良く金とヒマが有ったものと思われる個人が収集した民芸品展示館(2-3万英展示され他にも個人宅に2-3万英ある由)見学。引続き柏崎市役所にて、市長を始め助役、教育長、体育団副団長等の心暖まる歓迎の辞を受け、東村山市側より浅沼団長及び太田先生より感謝の念を表し、歓談の後、雨中市役所を後にしテニスコート2面を有する高校体育館を見学、その施設に感心しながら昼食を取る。

この間空模様も良くなり、この分だと屋外コートで試合が出来るといふ事になり、柏崎自慢のオールウェザーコート7面を有する白龍公園コートに出向き、第一日目の柏崎と東村山混成による親善試合を実施、柏崎サイドの組合せの妙を得て弱虫が4勝するなど東村山選手は負け知らずの親善試合を行なった。敵のワナである第一部の親善試合は5時に終了、宿舎に引返し、第二部ナイター開始迄疲れを癒し、歓迎会の準備も整い、東村山選手一同整列し柏崎出席者の拍手の中を入场し感無量。柏崎サイドはローンテニス協会の各クラブより2名など多数参加、助役、教育長、体育団副団長より丁寧な歓迎の言葉を戴き、東村山市より浅沼団長と太田先生より感謝と御礼を申し上げ、乾杯に移り両市の交流も彌が上にも高まる。酒良し料理良し(地酒と新鮮な海の幸)で宴も賑わ、のど自慢も始まり、我が浦川先輩の「佐渡の海」、柏崎体育副団長の「佐渡おけさ」等、のど自慢は東村山に凱歌があがり公式宴終了。部屋を変えた二次宴では今迄司会の柏崎随一の芸者、ローンテニ

ス協会事務局長の野村さんの「チントンシャン---昨年の出し物」に加え、新作の「女女嬢」なる訳の解らぬ芸を楽しむ。京都産で未だ独身と云う野村さんの冴えた芸に接した所で本番の両市対抗戦に備え早目に床につく。

愈々当日を迎え早々に起床、用意万端コートへ-----対抗戦は男子シングルス7組、男子ダブルス5組、女子シングルス1組、女子ダブルス1組、混合ダブルス3組、計17試合が組まれた。

試合の結果は市民テ中心の選手編成の東村山市が、地元の利を生かしベストメンバーで臨んだ柏崎市に12対5で昨年の雪辱を許し、我が東村山市は涙を飲み地元の花を持たせる事に相成った。閉会式終了後簡単な反省会が持たれ、柏崎選手団の見送りの中を来年東村山での再会を誓い合い柏崎市を後にした。

今回の遠征は本意な成績に終わったもののテニスを通して両市の親睦を大いに高め得たと自負される。又柏崎ローンテニス協会が特に個々のテニスクラブが確りした形で運営がなされ、確固とした強力な組織である事を知り、我が市民テを益々発展させ、延いては東村山市硬式テニス連盟の組織を一段と強化する事への結び付けの必要性を痛感した。

最後に太田先生及び団長としての浅沼体協理事長の御配慮と度重なるスピーチなどの御苦勞に対し感謝すると共に懇切な御世話を戴いた市体育課の田口主査に厚く御礼を申し上げ、報告とします。

七十歳の遠征の旅

月日月

月日月

阿辺川 貞夫

夜行列車の疲れも到着して一時間の仮眠で元気を取り戻し、午前中は柏崎市内を見学、午後親善試合と、この辺りは何の変化もなく気軽に行きました。明朝10月21日、東村山対柏崎の交流試合となりますと重苦しい感じ、然も東村山代表団の一員と思うと胸さわぎさえ覚えました。壮年組を一組作って頂いて出た訳ですが、結局相手が強かったのか此方が弱過ぎたのか、結果は見事な負け、連盟にお詫びを申し上げる次第です。後は各々の試合を観戦致しましたが、オール柏崎市は強く、全般的にも敗退と言うより外ありませんでした。私が平均年齢を引き上げ、平均戦力を低下させたばかりでなく、一般的に柏崎市は若い人が多く、今後は未恐ろしいとさえ感じました。

老人が参加する事はためらったのですが、行かれる立場の人、と言う条件で参加した次第でしたが、柏崎にも私共と同年輩位の方が一見した所6-7名見受けられました。いずれもテニス歴は長いらしく上手でした。柏崎市は立派な町並み、海あり山ありで、市内には本町、諏訪町、八坂神社、八国山等同じ名称も多く、市内最高の山はよねやま山と聞きました。旅館のもてなしから帰る迄総てに気を使って頂き、何不自由なかったのも一重に柏崎市の心のこもったもてなしを受けて、只管感謝するばかりです。

私とテニス <連載14>

(思多クラブ) 中根 和子

二年前の夏の合宿に、主人のお供をして参加させていただきました。全くテニスのできない私でも、親切、丁寧に指導していただき和やかな雰囲気になれる、私もぜひ仲間にと、さっそく翌月の9月に入部いたしました。

若くはないし、鈍い方なので、とにかく練習量をこなして、身体に覚えさせる事と、土・日はほとんど休まず練習に励んできました。

辛い小さい時から健康だけが取り柄で、体調のくずれもなく、これまで続けてこられました。テニスの面白さもわかりかけてきました。しかし、腕前の方は一向に上達しません。試合にも出場させてもらったりしますが、いざコートに立つと緊張して、胸はドキドキ、今まで習ってきた事もすっかり忘れてしまい、自己流に打ってミスが多く、自分の弱さが出てしまいます。

テニスを始めて二年余り、今まで熱心に指導していただいたにもかかわらず、何一つ自分のものにしていない事、つくづくと痛感しております。

何かの本で読んだ事を記憶していますが、「テニスは基本が重要だ。基本をマスターしたプレーヤーと、自己流とでは、初めは同じ伸び方をしても、将来必ず差が開いてくる。土台がしっかりした運物は、十階、二十階、と高くなってもビクともしないが、手を抜いた土台は、一階、二階は大丈夫でも、五階、六階と高くなるにつれ、支えられなくなってくる」とありました。

楽しめるテニスができれば幸いと、始めたスポーツではありますが、試合もでき、試合に負けてばかりでは楽しむテニスとはいえないでしょう。その為には、ある程度の技術が要求されます。私など、どこまでやれるかわかりませんが、希望をもって、下手は下手なりに、自分の納得できるテニスをやりたいと願っています。今まで習った事は、頭では理解しているつもりですから、これからは一球一球を大事に、「基本を忠実に」を念頭に、初めからやり直してゆこうと思っています。

そして、良き指導者、仲間と、恵まれた環境でテニスができる事を、何よりの幸運と深く感謝しますと共に、これからもなが〜いお付き合いを、よろしくお願いたします。

(右欄下よりつづく)

2セット目からは、相手コートへ、深く、深く、と自分に言い聞かせながら返球したのです。その結果2セット、3セットと自分のテニスができるようになりました。「相手コートに深く返す」ことは、試合を行なう基本的な事でこんなことに気づいたってと思う人もいるでしょう。でも、試合に限らず練習時でも、考えながらテニスすることが重要で、考えたテニスのどの程度までが実行できたかがテニスを楽しくすることになると思います。試合で優勢な時に、なんの作戦もなく戦って勝っても、真の楽しさを味わうことはできないと思います。

今回の柏崎遠征で、考えてテニスをする事ができ、あらためてそれを学び、また、大きな自信となりました。これからも、時間の許すかぎりコートに出て練習し、多くの試合に参加していきたいと思っています。

かきさん 柏崎に行く

(思多クラブ) 藤野 梢

チョット肌寒く、山々が少し色づき始めて、ひと月前の柏崎は、ちょうど今の東村山の感じでした。

柳さんから突然のお話を聞き、恐る恐る家族にきりだしたところ、意外にも「行っておいで。」と気持ちのいい返事。久しぶりの独り旅——“夜行列車に乗って、日本海に行くんだ”。私はすっかりロマンチックな気分になって、出発間際までの忙しい家事も気にならず、はりきって出かけました。あいにくの激しい雨にもかかわらず、早朝、駅に着くと、市の方々と先遣隊の出迎えをうけ、ここから熱烈歓迎のはじまりです。前夜からの寝不足の眼をこすりながら、市庁へのあいさつ、市内見学(特に全国五万英のおもちゃを集めたという稚媛の館は圧巻でした。)で午前中を過ごし、午後からは交歓試合。

日本海の荒波に面した宿も風情があり、何より海の幸ふんだんのごちそうには「おいしい!」の連発で皆食欲旺盛なこと。特にレセプションの夜の活魚作り、季節の甘えび、かに等、思い出しただけでも顔がほころびます。(ごめんなさい!)

ところが肝心の試合の日は、「お客さまには身軽に(小さい取組賞のカップの意味)お滞りいただきましょう」との甘言にのって、見事に完敗いたしました。前夜のレセプションでの美酒に酔いしれた訳でもなく、一晩はぐっすり眠ったのですし、条件は揃ってのぞんだのですから、力不足という他ありません。遠征隊の平均年齢40才。幅広い親善という意味では当チームもかなっているのですが……柏崎は強い、強い。

旅の楽しみは行く前が1/3、最中1/3、残りは思い出の中に、と言われますけれど、今回は、一番大事な試合の成績が悪くて申し訳なさが大きく心に残ります。来年こそは柏崎での心こまやかな歓待ぶりにまけないもてなしと、重い荷物(優勝杯)は置きみやげにさせていただけるだけのベストメンバーで臨んで、交歓の場を更に大きなものにしたものです。

対柏崎戦に参加して

(本町クラブ) 本保 俊昭

少年野球、バスケット、卓球といろいろとスポーツをしてきた私が、テニスを始めて3年目で、どのように間違っただけか東村山の代表として柏崎へ行ったことは、驚きにも増して嬉しいことです。市民テニス協を通してしか、まったくテニス知らない自分が、そこから飛び出すことへの期待と同時に、代表としての役目が勤まるか不安な気持ちもありましたが、「柏崎でおいしい料理でも食べて来よう」との武谷さんのことばに、リラックスした気持ちで参加することができました。

浸透性のすばらしいコート上で納得のいく試合ができたことはラッキーでした。前日に、ふだん飲み慣れない酒を飲んで、バタンキューで良く眠ったのが良かったのでしよう。

柏崎でのシングルの試合で、私は、1セット目を相手に取られて苦戦してしまいました。その時、自分のボールが相手コートに浅く入っている為に、常に相手のボールに振り回されていることに気づきました。(左欄下へつづく)

第2回市内太田杯争奪

団体戦を振り返って 武谷直也

去る11月3、5日の両日、第2回の太田杯争奪戦が、7チームの参加のもと久米川コートでくりひろげられました。

今年は1チーム4シングルス(男子2人、女子2人)、3ダブルス(男子2組、女子1組)で争われました。その結果、昨年の覇者である「日ベル」チームを4対3のスコアで破った「恩多」チームが優勝しました。

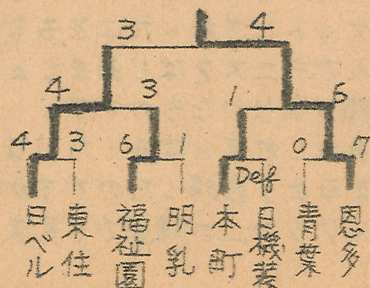
昨年、その場限りの寄せ集めとしか思えない即席チームを作りこの大会に参加を試み、多数の人からひんしゅくを買った「美住チーム」は矢張り「クラブ」としての活動が今年もなかったと見え参加申し込みがありませんでした。しかし、昨年のような事態を避ける意味もあって、太田杯争奪の運用規程に基づき試合を行なったためにチームのメンバーが揃わず心ならずも不参加せざるを得なかった「グリーン」チームや、「日機装」チーム(どちらも女子が不足)は来年こそ頑張るメンバーを揃えて参加してほしいものです。また硬庭連には、そのような事情のチームの何等かの救済策の検討を望みます。何と云っても太田杯はテニスの普及と発展を、そして市民の間の絆を強めることを励まそうとの精神がこもっているものでありますから、そのことを大切にしながら来年を目指して私たち市民テも大いに頑張ろうではありませんか。

さて、試合を振り返って特徴的な点を記しておきましょう。第一に、4シングルス・3ダブルスで選手が重複できないということから選手層の厚いところが利を得る結果になりました。市民テの場合、「恩多」チームがその卓有利でした。また、「日ベル」チームは、今年は一線の選手が他のチーム戦に出場とあって、不利を強いられたにも拘らず準優勝できたのもその現われといえます。第二に、美住クラブはテニス歴の長いメンバーが他市に転出しやや技術的には弱体化していたのですが、1回戦で、「日ベル」チームに敗れたとはいえ、3対4と接戦したことは賞賛に値します。第三に、夜勤のある「福祉園」チームがメンバーを揃え健闘したことはあっぱれといえましょう。第四に、「本町」チームと「青葉」チームは共に「恩多」チームと当たってしまい、日頃指導的立場にある選手とぶつかり、力が十分出せずに終わったことは不運でした。しかしその中であつても楠神が山本に9-7のスコアで逆転勝ちしたのは見事でした。また本保が武谷に3ポイントもぎ取ったのはねばりが出てきた現われでしょう。二人はまだ若く、従ってテニス歴も浅いのですがよく健闘したことで、今後増々楽しみです。

最後に市民テは他のチームに比して年代がやや高くシングルスの試合は相当苦しかったのではないかと察します。しかし、45歳以上の壮年はシングルスも種目としてちゃんと存在していますし、実際真夏の炎天下でも3セットをこなしている人たちが日本中到处都是にいます。市民テの諸氏も健康増進のため大いに発憤しようではありませんか。

毎度のこと、コート整備や後片付け、それに運営に御協力下さった皆さんにお礼申し上げます。なお試合結果は右の通りです。

三位「本町」チーム



新体連 三多摩テニス大会 に初参加して

< 優勝 > 栗原千枝子・下谷次子 (恩多クラブ) (青葉クラブ)

行楽の家族連れで賑わう秋たけなわの十月の日曜日、新体連硬式テニス大会に参加する為、私達市民テニスクラブのオバチャン3ペアは拜島線に乗り一路昭島市へと向かいました。私にとっては初めての遠征試合(ちょっとオーバーかしら)でもあり家を出る時から小さな胸(肉体的ばかりではないのよ)は高鳴りとおしてでしたが、会場に着いてみると参加女子各チームは若いペアが殆んどで私達のような中年(?)ペアは見当らず、ますます場違いの所に来た感じで落着かないことこの上なしでした。

愈々試合開始となりましたけれど、私達市民テニスクラブの参加3チームはいずれも一回戦はシードされ出番がありません。広々とした会場の校庭の片隅で身体の冷えを防ぐ為、日向ぼっこで暇つぶし(私、冷え症ですの)。他の試合を眺めているうちにどうにか胸のときめきも治まり、まよ、パートナーに「おんぶにだっこ」で……。あとは色の黒さとファイトだけであたって砕けると……。

最初の試合は大苦戦(6-4)、何しろフェンスに囲まれたコートの中でしかテニスをやったことのない私にとっては広々とした校庭にずらり一列に並んだコートに慣れるまでひと苦労。ラインの幅の細さも手伝って距離感さえも狂いがち。その上相手ペアは初めての顔(対外試合だもの当り前)で正確なレシーブ。粘り強さ。相手も良く練習しているんだなあと感じたり、卓の取れないのにイライラしたり。

二回戦は楽勝(6-0)、相手チームは一回戦では強力なサービスで圧倒的強さを見せていたので今日はここまでかと覚悟していたのですが、私達の時はファーストサーブが決まらず楽勝することが出来、やっぴっくり。やれやれと思つたらもう決勝戦。

相手の顔を見たら同じクラブの上巻・小林組です。どちらが勝つても私達市民テニスクラブが優勝を手に出れると思うと気分爽快。いつもの練習試合のペースで気楽に出ました。偶々小林さんが途中で足を痛めたため「タナボタ」的に優勝が転がり込んで来たといった感じ。

規模も小さく参加チームも少ない上にクジ運にも恵まれた為、初めての他流試合で思いもかけなかった「優勝」を手にすることが出来ましてテニスをやって良かったと感激一入でした。大きな賞をいただくことが出来、運が良かったんだなあ……。やはり嬉しいことでテニスを一生懸命やっていた良かったとしみじみ感じて居ります。もっと練習をし勉強しなくてはとますます励みになった大会出場でした。今大会は若いペアばかりだったのが印象的で、皆テニスが好きでやっているという爽やかな雰囲気にあふれていて、良い経験になりました。これも日頃お世話いただく先輩諸氏の暖かい御指導のおかげだと感謝申し上げます。

今回は市民テニスクラブの男子ペアは参加されませんでした。来年は是非多勢で参加出来たらと思います。今回の経験をステップに更に第二のジャンプに向かって共に練習に精を出していきたいと思っておりますので、皆様の御指導をよろしくお願い致します。

< 準優勝 > 裏面へつづく

新体連 三多摩テニス大会に参加して

＜準優勝＞ 上釜葉子・小林和美
(恩多クラブ) (青葉クラブ)

絶好のテニス日知に恵まれた十月二十二日、昭島のテニスコートで、大会が行なわれました。参加者は女子11チーム。まわりは、はつらつとした若いオばかり。私達、市民テニスは一巻お姉さん。若さに勝つには、持ち前のずうずうしさで、がんばる。なんとか決勝戦まで残りました。

決勝戦では、栗原・下谷組に完敗。それはそれとして、二回戦で試合をした相手のペアのさわやかさ。礼儀正しく、純情で、まだこんなすてきなお嬢さんがいらしたのかと、心洗われる思いがしました。女の子は、このような娘さんみたいに育てたいわね、と二人でうなづきました。

夕暮の電車の中で、キラッとふくろの中からのぞいている初めていただいた賞状、ちょっとほころしげな私達の顔。御想像下さい。

秋季市民テニス大会 混合ダブルス優勝
のことは

♡♡ 夫婦円満の秘訣 ♡♡
(恩多クラブ) 武谷千枝子

ミックスタブルスは夫婦で組んではいけない!! ともの本には書いてあるけれど、やっぱりミックスの醍醐味は夫婦で組むところにあるのではないかと今年フミヤ・桜台・毎日トーナメント・芦花公園・東村山と種々の試合に夫婦で出場してみ、確信を得ました。

二人で力を合わせて一つの目標に向かって汗を流す。まるで人生そのもの。一つ屋根の下に住みながら昼間も別々に仕事に夢中。夜も会議等ですれ違い、朝は忙しくてろくに口もきかない、なんていう生活にはお互いの我ままを殺して、信頼し合わない勝てないミックスの試合はいい案になったのでしょうか、このところ我家は安泰です。

—— のろけの章 終り ——

※ 右欄下よりつづく

雨の晴れ間の6月の日曜日久米川コートに出掛けていきました。まさにまぶしい太陽の下、老若男女の皆様がいかにも健康的でそして和気あいあいのムードの中でプレーを楽しんでいるのを見て、その場で申し込みをし、晴れて仲間入りをさせてもらいました。

ことのほか暑さの激しかった今年の夏、女房と二人ではげましあいなんとか出席率は良かったのですが、腕前のほうは生来の「スポーツオンチ」のせいかなかなか思うようにはいきません。しかし先輩諸氏の汗だくの球送り、御指導には頭が下がり、なんとか御期待に添いたいと思う毎日です。皮肉なものでお付合でやるゴルフの方は、テニスをやり始めてからスコアが良くなってきたようです。ボールをインパクトするタイミング、スタミナ等々にか差違があるのでしょうか。また始めて5ヶ月しかたちませんが、テニスはほんとうに世に言われているように奥が深く又年令を問わず出来るスポーツだと思います。

ヘタでもいいから女房と二人で「共しらが」までも続けていけたらと念願しています。最後にこのすばらしい会を紹介して下さった上釜夫人に感謝致します。

新しい中間に御登場 <編集部>
いただきました (恩多クラブ) 石原好子

早いもので、市民テニスクラブに入会させていただいてまる三ヵ月たちました。学生時代、夢中で軟式テニスをやりましたが、結婚、二人の娘の育児で、ラケットなどとも持てる環境ではありませんでした。そして仕事を再びもつようになって、社のテニス好きの連中と声をかけ合って愛好会らしいものを作りましたが、これも軟式。月に二回ほど体育館を借りて、夜間打ち合っていたのですが、屋内でしかも照明の中では、なんともきまった感じではなく、もったのびのびとテニスを楽しめたらなあっていつも思っていたのです。そんな思いを、神様が知ったか知らずか、栗原夫人に引き合わせてくださって(もっとも、ドラマチックなことはありませんでした。栗原さんとは、御近所なのでから……)市民テニスクラブに入会できるようになったわけです。それにしても、硬式テニスは、はじめて。ボールを打てばホームラン、フェンスにパーンとあたるほどの飛びようには、恥づかしい思いよりびっくりしました。ラケットは重いですし、グリップが違います。特にバックハンド打ちには、まったく泣かされます。ラケットの両面でボールを打つとは思ってもみませんでした。こんな心細い有様で入会させていただいたのに、メンバーの方達の暖かく受け入れてくださる御好意に甘えて、図々しくコートに出て、「ああ大きい!」「ああ小さい!」「すみません」と大きな声でやらせていただいて、我ながら申訳なく思います。ボールを出してくださる先輩諸見姉がまったくの所、神様みたいに見えているところです。三ヵ月たってやっとボールを叩くのではなく、ラケットの面を作ってボールを押してやるのだということがようやく自分の心の中にジワジワとしみこんできた感じがします。

また、テニスのラケットが振れるようになって、今更ながら、テニスが一番素晴らしい、楽しいスポーツだと思えます。入会させていただいて、ほんとうによかったと感謝している今日この頃です。どうぞ、今後ともよろしく御指導いただけますよう、かえねてお願いいたします。

(青葉クラブ) 儀間 進

運動不足が気になりだし、なんとかしなければと思いつつ、8年が過ぎました。有言不実行であれこれ「宣言」をしたりプランをたてたり、運動用具を買込んだりしましたが結局は三日坊主に終わりました。

ミッチーブームとかやらせはあげて「第一次テニスブーム」の頃青春時代を迎えた私には「テニス、はあまりにもまぶしく、コートのをきを通るだけで胸がドキドキしたものです。その為、学生時代を通してたいのみのスポーツをヘタなりにこなしてきたのですが、ことテニスに関してはラケットを握ることはおろか、試合のルールさえ知らない有様でした。そのテニスをこの年令で、しかもこれまたラケットにさわったこともないという女房からいきなり二人でテニスを始めましょう」といわれた時は、おもしろ顔を赤らめたものです。

あれこれ言い訳をしたりなんとかその考えだけは思いとどまるよう説得したのですが、とにかく一度その「市民テニスクラブ」の練習でも見ましようということになり、梅

左欄下 ※ へつづく